

「ギャラリー鳥たちのいえ」に集まる思い

若桜街道の本町の角地にある「ギャラリー鳥たちのいえ」は、長年「ギャラリーあんどう」として親しまれてきた場所。2017年6月の閉廊後、鹿野町で演劇に取り組む「鳥の劇場」の中島諒人さんが、“この場所がすっぽり空いてしまうのはよくない”と、個人で建物から買い取り、名称を変えて、ギャラリー運営を継続されています。新しいギャラリーを応援したいと7月14日～8月10日にかけて開かれたのが、展覧会「裸のトポス」です。写真家・池本喜己さんが昭和50年代に上町の樗谿グランドアパートで撮影していた写真を30年の時を経て発表。会期中に開かれたトークでは、鳥取の文化を支えてきた方々が、古い建物やまちの記憶、鳥取で表現活動することなどについて語られました。まちは過渡期。いいものをしっかりと受け継いでいきたい。



(ギャラリー鳥たちのいえの展示室で行われたトーク風景)